土木の日
DOBOKU DAY
NOVEMBER 18

2026年度「土木の日」のご挨拶



小澤 一雅
土木学会 第114代会長
（政策研究大学院大学特別教授・東京大学名誉教授）

11月18日は「土木の日」です。土木の二文字を分解すると「十」と「一」「十」と「八」になり、この日が土木学会の前身である工学会の創立記念日であることから、1987年に記念日として定められました。土木の日と土木学会創立記念日である11月24日までの一週間は「くらしと土木の週間」とされ、全国で見学会や展示、体験イベントが行われています。

私たちの身の回りを見渡すと、道路や橋、鉄道、港、ダム、上下水道、公園や河川敷の遊歩道に至るまで、数え切れないほど多くのインフラが広がっています。これらはすべて、土木技術者や現場で働く多くの人々の知恵と努力によってつくられ、守られてきたものです。朝、家を出て学校や職場へ向かうとき、安全に歩ける歩道や横断歩道があります。スーパーやコンビニに並ぶ食料品や生活用品、希望の時間に届く宅配便は、道路や鉄道、港などを通って毎日運ばれています。蛇口をひねれば当たり前のようにきれいな水が出て、使い終わった水は静かに処理場へと運ばれていきます。こうした「当たり前」の一つひとつを支えているのが、土木の仕事です。

近年は、激甚化する豪雨や地震などの自然災害に備え、排水施設や下水道の整備、堤防の強化や耐震補強、老朽化したインフラの更新が急がれています。また、カーボンニュートラルや再生可能エネルギーの導入、コンパクトシティやスマートシティの実現など、新しい時代のまちづくりにも土木の力が欠かせません。一方で、これらのインフラは一度つくれば終わりではなく、点検・補修・更新を続けていくことで、はじめて長く安全に使い続けることができます。人口減少や技術者不足が進むなかで、限られた人材と予算でインフラを守り抜くことは、大きな課題となっています。その解決に向けて、最先端の情報通信技術やAI、ドローン、3次元データなどを活用した「i-Construction」やデジタルトランスフォーメーション（DX）、働き方改革に取り組む動きも広がっています。

土木の日は、こうした土木の役割や魅力を多くの人に知ってもらうための一日です。全国各地で、研究施設の一般公開や現場見学会、子ども向けの体験イベント、講演会やシンポジウムなど、さまざまな催しが行われています。私たち一人ひとりが、普段何気なく利用しているインフラに目を向け、その価値と、それを支える人々の努力に思いを馳せること。インフラを「自分ごと」として捉えること、それが未来の社会をより良くしていく第一歩になるはずです。土木の日にあたり、これまで日本の発展と私たちの暮らしを支えてきた土木の先人たちに感謝するとともに、これからの社会を担う若い世代が、土木の世界に関心を持ち、共に新しい時代のインフラを築いていくことを願っています。

『土木の日』公式ウェブサイト https://www.jsce.or.jp/committee/day/

【土木の日共催団体】
日本建設業連合会、建設コンサルタンツ協会、セメント協会、電気事業連合会、日本橋梁建設協会、日本鉄道施設協会、日本道路建設業協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本埋立浚渫協会、全国上下水道コンサルタント協会、関東地域づくり協会